

日時 令和4年5月27日(金)

午後2時00分～午後4時30分

場所 浦和コミュニティセンター第13集会室

第 1 回

さいたま市市民活動推進委員会

会 議 録

1 開 会

2 議 題

- (1) 基金団体登録審査について
- (2) 令和3年度マッチングファンド事業の報告会
- (3) 市民活動及び協働の推進について

3 その他

4 閉 会

さいたま市市民局市民生活部
市民協働推進課

出席者名簿

委員	阿部	成男	(市民活動団体の代表者)
(50音順)	大木	洵人	(公募により募集した市民)
	岡	志寿子	(公募により募集した市民)
	佐々木	誠	(学識経験を有する者)
	田中	亜弓	(公募により募集した市民)
	谷崎	美智子	(公募により募集した市民)
	永沢	映	(学識経験を有する者)
	福島	まり子	(市民活動団体の代表者)
	藤原	悌子	(市民活動団体の代表者)
	古川	晶子	(市民活動団体の代表者)
	堀川	修平	(学識経験を有する者)
	松岡	進	(公募により募集した市民)
	丸屋	美智代	(市職員)
	山本	和広	(市民活動団体の代表者)

事務局	浅見	有	(市民協働推進課課長)
	千葉	元博	(市民協働推進課係長)
	中川	菜々子	(市民協働推進課主事)
	高橋	隼	(市民協働推進課主事)

欠席者	新井	恭代	(公募により募集した市民)
	池田	宏	(大学又は事業者の代表者)
	尾館	祐平	(市民活動団体の代表者)
	島田	正次	(市民活動団体の代表者)
	山口	恵美子	(市民活動団体の代表者)

1 開会

- 開会の挨拶
- 委員の異動紹介
- 資料の確認
- 職務代理者の指名
- 傍聴者の確認

2 議題

- 議題1 基金団体登録審査について

○事務局

(資料1-1、1-2に沿って説明。)

○佐々木委員長

審査にあたって、御意見や御質問等あればいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。何年おきに登録の更新があるのでしょうか。

○事務局

3年おきです。

○佐々木委員長

今回の更新は5回目ということですね。それでは早速、登録要件に基づいて審査行いたいと思います。条例に基づいた団体であるか、地域または社会における課題の発見及び解決のために、自発的自主的に行う非営利で公益的な活動かというところが基準になるかと思いますが、これに関して登録でよろしいでしょうか。

○出席委員

(了承。)

○佐々木委員長

それでは登録ということで決定させていただきます。

■議題2 令和3年度マッチングファンド事業の報告会について

○佐々木委員長

議題2に移りたいと思います。令和3年度マッチングファンド事業の報告会について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

(資料2-1、2-2、2-3に沿って説明。)

1番目の発表は、ホタル舞う水辺環境の保全再生事業について、発表をお願いします。

○岩槻ホタルの会 新井

ホタル舞う水辺環境の再生というテーマで実施いたしました。事業は環境対策課と一緒に実施しました。

実施項目は、次の5つがございます。ホタル鑑賞会の実施、ホタル舞う水辺環境再生シンポジウムの実施、ホタル飼育講習会の実施、子どもたちにホタルを見せる会の立ち上げ、ホタル自生地の復活整備という5つの事業を実施しました。

具体的には、7月17日と18日にホタル鑑賞会を実施しました。新型コロナウイルスを考慮し、手の消毒等を行って観賞会を実施しました。

シンポジウムにつきましては、8月22日に市民会館岩槻で100人弱の参加で、距離を十分とって実施しました。

講習会につきましては、9月12日、9月26日座学で、10月7日に実地講習を行い、ホタルを配布して飼育をお願いしました。この講習会につきましては、1回だけで終わるわけではありませんので、2年間かけて続けます。

この間、5月15日におきましては、ホタル上陸のセッティングを行いました。

自生地の復活につきましては、岩槻文化公園で実施する予定でしたが、公園所管課には了解を取りつけましたが、生態系保護の団体が反対されたため、実施ができませんでした。

自己評価としては、50点かなと思いますが、コロナの第5波が出ている時でしたので、昨年

の情勢を考えれば、及第点かと思っております。また、ホタルを見せる会の立ち上げが、全市内小学校でできなかったのですが、一校だけPTAから力強い参加がありました。

今後の展開は、子どもたちにホタルを見せる会、これを引き続き指導していきたいと思っています。2番目に、ホタルが自生できる候補地の選定に努め、整備を進めていく。最後に、ホタル観賞会は今後とも引き続き開催していく予定です。以上です。

○事務局

御質問ある委員は、挙手をお願いします。

○松岡委員

ホタルを見せるということが目的だと思いますが、それも併せて水辺環境は、変化しつつあるとお感じでしょうか。また、このホタルは、源氏か平家のどちらですか。

○岩槻ホタルの会 新井

ホタル鑑賞会に来ていただいて、市民の方にパネルを通して環境について学んでいただいています。水の大切さや環境の大切さについては、少しずつ広まっているのかなと思っています。また、当会がやっているホタルは平家でございます。

○藤原委員

生態系保護の団体が反対したということでした。その理由は何ですか。

○岩槻ホタルの会 新井

自然界にないものを放つのはよくないということでした。岩槻文化公園については、昔からホタルが飛んでいたところで、自生地には最適かと考えていましたが、人間が手を加えるのはよくないということかなと思います。実際の交渉については、環境対策課さんをお願いしました。

○環境対策課

団体と交渉したのですが、新井会長からありました通り、現在自然に無いものをさらに増やすことで、今ある環境が乱される可能性があるというご指摘いただいて、少し難しいかなと今

回は見送らせていただいた次第です。

○佐々木委員長

助成額28万9千円という額を使われたと思うのですが、来年度はそれはなしで、事業を継続されると思うのですが、助成の穴をどのように埋めるのか、或いは事業を縮小するのか、今後の展開についてお聞きしたいと思います。

○岩槻ホタルの会 新井

今回、30万円弱の予算ですけれども、コロナ対策のため狭い会場では駄目ということで、大きな会場の市民会館を丸一日使いました。そのため、費用がかさみました。ポスターを作成したのも大きかったです。

会場整備につきましては、そもそもマッチングファンドでは予算がつきませんので、別に工面する予定でしたので、今後整備していくためには、マッチングファンドではなくて、別のところからの予算化ということを考えております。

ポスターにつきましても、団体の会の予算で今後は実施していきたいなと思っています。

○事務局

岩槻ホタルの会さん、環境対策課さん発表ありがとうございました。

それでは次の発表に移ります。「子育て応援サロンママカフェ*めぐみか」の発表です。

○ママカフェ*めぐみか 川合

子育て応援サロンママカフェ*めぐみかをマッチングファンド事業で開催させていただきました。

私たちは、浦和区支援課さんと協働しまして、おうちでお子さんと過ごしているママさんたちの子育て広場を運営させていただきました。

当初予定していたのが、計7回でしたが、コロナ禍の影響もあり、緊急事態宣言が出ている間は開催せずに、計4回開催しました。

1回目は新聞遊びをテーマに開催しました。初めて集まったお母様が10組参加されました。

2回目は、親子リトミックの予定でしたが、コロナ感染症拡大のため、緊急事態宣言が発令され中止となりました。リトミックは人気の講座で、申し込みも満員でしたので、1月に開催

予定だったものと振り替えて行うこととしました。

10月が運動遊び。12月は手形アートでクリスマス。1月は先ほど中止になった親子リトミックを実施しました。3月に予定していた親子の絵具遊びも中止となってしまいました。

最後になりますが、マッチングファンドで協働ができてよかった点は、決まった場所で開催ができるということでした。浦和区支援課さんと協働することで、広い場所を提供していただけるだけで余裕を持って企画ができました。利用される参加者の方にも、わかりやすい場所での実施でした。

参加者からのアンケートでは、コロナ禍で行ける場所が少なくなり、初めてこういう場所に親子で来ましたという声が多くて、開催した意義は大きかったです。感染症があったとしても、やっぱりママさんと子どもたちが健全に育児や子育てをしていくには、人が訪れる場所に集まること、その必要性を改めて感じました。

今回協働することで、支援課さんのニーズである、情報提供にも対応することができました。次につなげていくためには、私たちのような小さな任意団体だけでなく、浦和区全体にある幾つかの任意団体が協働することで、子育て広場を発展して運営していくことに繋がるかと思いました。市の負担を減らすとともに、いろいろな団体と市が繋がっていくことにより市の活性化に繋がると感じました。

今後の展開として、私たちは3人で活動していたのですが、仕事の都合と、緑区の活動を主に力を入れ、利用者の方から参加費を取って、公民館等の小さな場所で運営していくことになっています。以上です。

○事務局

それでは、質疑応答に移らせていただきます。御質問のある方は、挙手をお願いいたします。

○古川委員

評価表に、QRコード等の情報が載せられなくて、広報で困ったと書いてありますが、市報にQRコードを提供して載せるというのは、不可能なのでしょうか。

○ママカフェ*めぐみか 川合

市報はスペースが限られているので、載せられる情報が少ないですと最初に言われました。

また私たちは任意団体なので、自分の携帯電話しか持っていないため、メールアドレスを公表してくださいとお願いしたのですが、メールアドレスでは、市の広報は対応していませんと言われました。

○事務局

市の広報課にも確認したのですが、どうしても電話番号を載せないといけないというルールがありまして、そこは変えられませんでした。また、川合さんがおっしゃった通り、掲載できる場所が限られていたということで、このような対応になったところです。

○占川委員

電話番号は、所管課の番号を載せて、所管課のホームページにQRコードを載せる。電話をもらったら市ホームページに掲載されている団体QRコードを紹介するという、併用方法ができるのではないかと思います。

○佐々木委員長

団体さんが書いた評価表にありましたが、協働する中でやはり民間の力を生かすことが大事だと読み取れるなと思い、非常に効果があったなと思いました。所管課は評価表を見ると、参加者の満足が高かったということは書いてありますが、今後に向けて何かありますか。

今回のような協働ということを進めれば、所管課の多忙さも少し軽減されますし、民間団体の活動を高めていくことになると思うのですが、今後どうしていくつもりなのか、子育てに関わる団体が多いと思うのですが、いかがでしょうか。

○浦和区支援課

現状、この事業をやる前に、児童センターさんなどは年8回やっているのですが、その補完分ということで提案したところ、合致する応募が2団体あり、試行的に今年度実施しました。今後のことについては、検討させていただければと考えております。

○佐々木委員長

今回、結構効果があることがわかったので、できれば予算をしっかりと取って、民間団体さんと連携して、実施されると良いかなと思いました。

○谷崎委員

最初の新聞遊びの時に、来場者の集合が遅れたということで、第2回目以降は具体的に何か対策はされたのでしょうか。

○ママカフェ*めぐみか 川合

電話連絡の時に、スタートの時間をきちんと伝えました。申込の後に、私が全員に電話説明をしました。

○事務局

ママカフェ*めぐみかさん、浦和区支援課さん、発表ありがとうございました。

続きましては、3番目の発表です。「子育て応援ハッピー絵本サロンの開催」です。

○一般社団法人Happy-Casket 保科

一般社団法人Happy-Casket代表理事の保科恭代と申します。

昨年度、浦和区支援課さんと協働いただきまして、私どもも子育て応援サロンを行いました。私どもの子育て応援サロンは、お母さんたちに絵本の読み聞かせがとても人気がありまして、その絵本を使っのサロンを、昨年度実施しました。

私たちもコロナ禍で、全5回開催予定のところを2回の開催となってしまいました。どの回も参加者の募集をしていたので、参加者様との出欠、もしくは中止、延期、そういう連絡にスタッフの手が非常に取られた1年間でした。

私どもが開催したのは10月7日、それから12月2日の2回です。

10月7日は、緊急事態宣言明けということで、大きな準備はせず、お部屋に英語や日本語の本を広げて、皆さんにおもちゃと一緒に手に取っていただくようなサロンとしました。

サロンでは、私の方で絵本の読み聞かせの仕方ですとか、子育てについてのお話をさせていただきました。

2回目は、クリスマスシーズンということで、めぐみかさんとかぶるのですが、親子手形でクリスマスツリーを作りました。お子さんの指先の知育に必要になってくるシール剥がしやシール貼りをやりました。クリスマスに関する絵本とか、その他何冊か絵本をご紹介して、予定時間が10時から11時半までですが、お母様方にはなるべく長い時間いていただきたいというこ

とで、12時半から1時ぐらいまでお部屋を開放して、みんなでおしゃべりしました。

評価表の事業成果は、十分ではなかったとしたのですが、コロナ禍で開催がなくなってしまったということで非常に不満足な想いがありました。お母様方が集まるとすごく楽しそうなので、もっとたくさん提供できたらよかったなというところで、不満足にいたしました。

みんなが集まる機会がすごく減ってしまって、消化不良で終わってしまったなという1年間でした。以上です。

○事務局

御質問のある方は、挙手をお願いします。

○古川委員

評価表の中で、子育てに関して当事者の思いと周囲の考えに相違があると感じたとありました。どういったことか教えていただけますでしょうか。

○一般社団法人Happy-Casket 保科

当事者の思いと周囲の考えに相違があるということで、子育てをしているお母さんたちが、こういう子育てサロンに集まるというのは、遊んでいるわけではないんですよ。

私も子育てをしているときに、尊敬する先輩ママから、あなたの今の一番の仕事は、子どものための情報を集めてくることですよと言われてました。それを子どもに反映させてあげること、それが一番の仕事だよと言われたのが印象的です。

ただ、今回に関しては、ここにいらっしゃる方が該当するかもしれませんが、こういう発言をすると、所詮ママたちが集まる場所なんだろうとか、ちょっとした一言が返ってくる人が多いです。

遊びとしてお母さんたちが集まっているのではなく、もちろんストレス解消とかもあります。そうではないということをいろんな方に知って欲しかったと思っています。なるべく今回のサロンも子育てに関する脳のお話とか、お母さんたちが勉強できるような話を組み込みました。

だから皆さんにおいても、お母さんたちが集まって、ただキヤーキヤーやっているのではなくて、頑張っているんだよというところも見ていただきたいなと思いました。

○古川委員

氷山の見えているところと下の方というか、当日そのキャーキャーいうところまで持ってくるのに、どれだけ労力がかかるか、そんな毎日をおくことの労力が見えない人からすると、コロナもあるのに集まってサロンの開催なんてと印象を持たれることがあるといった感じですかね。

○一般社団法人Happy-Casket 保科

それも一部かなという感じですね。

○阿部委員

参加資格は、お父さんではダメなのでしょうか。

○浦和区支援課

お母さんだけでなく、お父さんも参加したケースがありますので、親御さんであればというふうに区は考えております。

○阿部委員

夫婦で行っても大丈夫ですか。

○浦和区支援課

拒みません。市でやっているサロンでは、夫婦で参加しているケースがございます。

○事務局

それでは4番目の発表です。さいたまつくりての輪さんの発表です。

○さいたまつくりての輪 塚田

私たちは去年3回、手をつなごう！さいたま市民活動夢マルシェというイベントを行いました。市民に対して市民活動を知らせることが重要ということで、何度も何度も話し合いながら、市民活動団体を集めてイベントをしようということで始まりました。

事業の目的は、市民活動団体の事業内容を発表して市民に伝え、活動チラシの配布や物の販

売によって市民活動を知らせることで。

マルシェを開催したのは、7月18日、10月10日、11月21日ですが、コロナ禍で初回を6月から7月に変更し、2回目を9月から10月に変更して、11月は変更なく全3回やりました。

市民活動団体の参加者は、この活動に参加して、それぞれ別の団体と仲良くなったり、市民に自分たちの活動を知らせて、こういうことが市民活動だということを理解してもらったり、楽しいと言ってもらったりして、活動の輪がさらに広がったと感じております。

市民に周知が広がったという点と、私たちのつくりての輪の会員が多数いますが、その人たちがボランティアとして活動して、事前の準備や当日も参加者全員で運営できました。そういうことが自分たちの団体にとってもよかったと思います。

最後に、団体の反省会で実際に出た意見は、団体の紹介だけでなく、実際に活動しているところを見てもらって、市民活動に楽しいというイメージがついた。それから、みんなそれぞれ活動を楽しんで、市民の皆さんにも楽しい活動を伝えられ、団体の活動を行うことの良さを確認することができた。また開催して欲しい、次回はいつやるのかといった市民の声もたくさんいただきました。

次年度以降も市民広場を使って、イベントを開催していきたいと考えております。今年はまたマッチングファンド事業の採択をしていただきました。マッチングファンド終了以降もなるべく長く、市民活動のイベントを続けていきたいと考えております。

○事務局

質問のある方は、挙手をお願いします。

○古川委員

非常に盛況で3回とも実施され、団体同士の繋がりも増えたということなのですが、そういう出展された団体さんの傾向として、レクリエーション系の団体さんが多いようですが、どんな分野の団体さんが参加されたのでしょうか。

○さいたまつくりての輪 塚田

参加団体は、さいたまつくりての輪の私たちが主催団体で、さいたま市と手を組んで福祉関係の事業をしている公益社団法人さいたまデザイン協議会、それから埼玉県南の方にクルドの人たちがいっぱい集まっているのですが、その人たちの文化を伝えたいということでクルド

文化教室、Jリーグの理念を実現する市民の会は、Jリーグを応援する団体が絵本を作って、さいたま市内の学校に絵本を全校寄付したのですが、それについて説明をしました。それから、陶芸文化振興財団は、陶芸文化の楽しさを伝えました。それから、埼玉骨髄バンク推進連絡会は、県内で活動しているのですが、その活動について説明をしました。それからさいたま有機都市計画というのは、見沼たんぼで若者たちが有機栽培の野菜を作っているのですが、その宣伝をしました。mUjiCanvasは、音楽を通して子どもたちと一緒に遊んで、音楽の楽しさを教えていました。それから特定非営利活動法人コロコロ研究所は、ピタゴラスイッチのような活動をしている団体です。一閑張りを広める会は、高齢者の女性たちが、日本の伝統文化をさらに広げたいということで出展しておりました。

また、イベントは楽しくやりたいということで、色々な飾りや、舞台やステージ出演をしたら楽しめるかなと思って実施しました。スタンプラリーもそれぞれの団体が寄付で景品を出してもらって、団体のチラシや活動案内を入れながら団体の宣伝もかねて、市民に対してこういう団体が活動しているということをやりました。

○松岡委員

スタンプラリーですが、チラシに記載のアルファベットの店舗と数字の店舗との区分けというのは何かあるのでしょうか。

○さいたまつくりての輪 塚田

数字はつくりての輪のグループです。アルファベットは、つくりての輪以外の参加団体です。

スタンプラリーは、多いと大変なので、8箇所にしました。最後の方は10団体くらいの参加があったので、2団体で1セットにして、参加者はなるべく苦勞せず周れるようにしました。

○事務局

5番目の発表です。事業名は「Shining Hearts' Party19」です。

○子育て応援隊むぎぐみ 島村

私どもの活動は、一年間しっかり準備をして、年に一度バリアフリーコンサートを開催するという活動をしております。

昨年度は、さいたま市の協力を得て、11月21日にさいたま市文化センターの大ホールで開催しました。コロナ禍でしたが、対面で開催することができ、同時にオンラインでYoutube配信をすることができました。

《動画を流しながら説明》

ホワイエといってホールの前にある場所で、感染対策を行いました。配信は、エアシップさんという業者さんが丁寧に接してくださいまして無事に配信することができました。

本番誰も来なかったらどうしようと思ったのですが、400人近い来場者が来ていただけたのでありがたいと思っております。

こちらが有志で集めたShipキッズという子ども達です。コロナ禍でなかなか集まらなかったのですが、頑張って発表してくださいました。

ボッチャなどを開催して、子どもたちと一緒に楽しむことができました。アンケートは本当に私たちも泣けるくらいの良いアンケートがいただけたので、開催出来てよかったなと思っております。さいたま市の方にも御協力いただいて、パワーポイントを作っていただいたのを流させていただきました。

初めて開催してから19回目を迎えるのですが、車いすの方が17台と多くいらっしゃいました。本当に多くの車椅子の方々が、このコロナ禍に来ていただいたことに、本当に感動しております。さいたま市の所管課さんも本当に御協力ありがとうございました。一緒に手伝って運んでくださったりもしたので、心より感謝しております。

○事務局

質問のある方は、挙手をお願いいたします。

○佐々木委員長

19年間続けられているということですが、今回マッチングファンド助成金をもらって、今までできなかったことができたとか、そういうことを一つ、二つでも教えていただけたらと思います。

○子育て応援隊むぎぐみ 島村

今年初めてやったのは、ホールからのオンライン中継です。こちらは本当にできるのか不安だったのですが、さいたま市の文化センターの音響の方、あとエアシップさんというさいたま

市の業者が総力を挙げて、中継していただきました。私どものボランティアでできるところはやる、テロップを流すのはこちらでやる、作るのもこちらでやるという協力体制でやったことが良かったなと思います。

○佐々木委員長

何が新しくできたかっていうことをお聞きできればと思います。

○子育て応援隊むぎぐみ 島村

オンライン配信です。

○事務局

続いては6番目の発表です。事業名は「音楽と一緒に高齢者の居場所づくり事業」です。

○南箇「歌声・あおぞら会」吉村

まず我々がやっている、音楽といっしょに高齢者の居場所づくりというのはどんなものか、実際にDVDを見ていただいて、どんなものか知っていただければと思います。

《動画を流しながら説明》

私どもは南箇公民館で、月2回の例会をやっています。団体の会員数は、昨年の9月9日にこのコンサートを開催した効果もあり、以来毎月2名ずつくらい会員さんが増えまして、地域の方も非常に関心があるということを感じました。

公民館の近所に住んでおられるオペラ歌手、本来であれば都内の一流の音楽ホールでやっておられる方なのですが、地元出身の2人のプロの音楽家の演奏を近くの公民館でやるというイベントでした。

ただ、この種の活動をやるには音楽環境を重視しなければいけないのですが、実は昨年も同じような企画をしまして、緊急事態宣言があって中止になりました。その時の委員の方のご指摘は、公民館が使えなければ、屋外でやったらどうかというご指摘をいただいたのですが、この種の活動は屋外ではできません。音の問題もあります。公民館でもこれだけのことができるということです。音楽は、高齢者の介護予防にも非常に効果があります。

○事務局

特に質問がないようでしたら、これで発表を終わらせていただきたいと思います。

最後の発表は、「セカンドライフを応援する「空き人診断ツール」の制作と普及に関する事業」です。

○シビックテックさいたま 桑原

報告書がかなり分厚いので、3分版で1年間やったことをまとめましたのでご覧ください。

書類にあった「空き人診断ツール」は、名前を改めて、「人生これから診断」ということで実施しました。企画の背景としては、定年退職した人や、親の介護が一段落した人たちが、何をしたらいいか迷っているというところで、その対象者と市役所が持っているいろんな情報をつなぐツールを作ろうということで1年間取り組みました。

まず、この市役所の持っている情報について、高齢支援に関する様々な行政の担当者と会議を実施しヒアリングしました。簡単に手に入りそうだったのですが、データがいろいろな形で公開されていて、収集に向けては課題が山盛りだなというところで、途中で断念したところでもあります。

ツールに関してですが、占いの診断を作ろうということで、まず、知り合いの対象者にヒアリングをしました。それらをカテゴリー分けしながら、計画とか行動を整理し、それに基づいてアンケートを作成しました。市内のシニアにアナログ、ウェブとかで、1回100名のアンケートを複数回行って、都度AIのデータ解析を使いながら、クラスタリングを行いました。

その結果、年度の最後に、シニアを10タイプに分けることができました。後でご覧ください。地味ですがここがすごいということで、今シニアといっても、かなり幅がすごく広いので、実はシニア層をとらえるマーケティングがとても難しい時代に、アンケートに基づいて分析を行うことで、高解像度でシニアをとらえることができたなと思っております。

LINEのチャットボットを利用して、診断ツールを作りました。今日、はがきを配っておりますので、よかったらやってみてください。今後は図書館とか本屋とかウェブとか、いろいろなところでやっていけたらいいなと思っております。

報告会では、今までやってきた1年間のことを最後にイベントで報告しました。今年度、マッチングファンドには手を挙げてないのですが、作成したばかりのツールなので手元にある結果が少ないので、とにかくツールを広めて、診断結果を集めて精度を上げていくってこと、あと断念してしまったシニア関連の行政情報の整理を引き続き行うこと、併せてさいたま市在住のシニアに、これはウェブとかではなく、実際にスーパーとかで実態調査みたいなもの

を行って、本音等様々なことを聞けたらなと思っております。以上です。

○事務局

御質問のある方は挙手をお願いします。

○古川委員

おじさんたちというのが何回か聞こえたのですが、なぜおじさん中心なのでしょう。

○シビックテックさいたま 桑原

発表ではおじさんと言ったのですが、定年退職後、なかなか地域に入れない人、一歩踏み出せない人が、どちらかというとなりの方が多かったため、おじさん中心にと考えていました。ただ、実際のアンケートでは男女両方とも数を合わせて取ったところ、実は差異が全然ないことがわかりまして、実際の診断ツールの形としてはおじさんにあまりフィーチャーせずに作るようしました。

○藤原委員

ヒアリングとかアンケート対象は、どこを対象にされたのでしょうか。

○シビックテックさいたま 桑原

60歳から74歳を中心に取りました。

○藤原委員

どういう場所とか、どこで。

○シビックテックさいたま 桑原

私が本業でやっているBABAラボというシニア向けの事業があるのですが、その会員とかサポーターが多くいるので、あとは高齢福祉課が管轄しているシニアユニバーシティなどでアンケートをとりました。ある程度もう活動されていたりする人ですね。

○藤原委員

どうしたら良いかわからない人たちが対象だったならば、ちょっと方角が違うんじゃないかしら。

○シビックテックさいたま 桑原

それもあって、発表でスーパーとかで調査したいなと最後に言わせていただきました。今回調査対象が結構アクティブ層になってしまったので、今年度は道を歩いている人たちに声を聞いて、さらに精度上げていきたいというところもあります。

○佐々木委員長

非常に興味深いツールだと思います。この評価表を見ても所管課からの良い評価をもらっているかなと思いますし、意義のある活動だと思うのですが、今後団体さんとして自立してやっていくつもりなのか、行政としても効果があるのであれば協働を持続したほうが良いという考えもあると思います。まず団体さんの意向を聞いた上で、所管課として、今後予算化してやっていくつもりあるのかどうかということをお聞きしたいです。

○シビックテックさいたま 桑原

やっぱり行政データとどうつなげるかというのは、今後もこの協定書を結びながら一緒にやっていきたいなと思っています。その事業化に関しては、実は結構シニアのコンサル系の企業さんとかから、これをカスタマイズして使いたいみたいな話もあるので、そういうところでお金を得られれば良いかなと希望を抱いております。

○高齢福祉課

協力できるところは引き続き協力してやっていこうと思っていますし、成果が少しずつ見えてくれば、事業化に向けてやっていきたいなと思います。

○佐々木委員長

ぜひその方向を期待しております。

○事務局

それでは、発表を終わりにさせていただきたいと思います。以上で報告会を終了させていただきます。

できます。

報告会を聞きながら、講評を記入しているところだと思いますが、記入整理の時間をとらせていただきます。記入が終わった方から休憩に入ってくださいようお願いします。15時30分まで休憩の時間とします。休憩後は、事業に対する本委員会の講評をまとめます。

《5分休憩》

○事務局

議事を再開します。講評のまとめにあたっては、進行を委員長にお返しいたします。

○佐々木委員長

それでは、講評をまとめる討議に移りたいと思います。

まとめ方に関してご相談ですが、本委員会では今回の講評と同じように、意見を集約して文章化する機会が多くあります。

昨年度の委員会では、この場に出された意見を文章化するにあたって、協議で出た発言を事務局が要旨としておこして、その上で委員会の一任をいただき、委員長の私に取りまとめるという手続きで進めました。今年度も同じような形式で進めたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

皆さんこの講評意見記入表を書きいただいていますので、集めて事務局でまとめていきますが、せっかく皆さんこの場にいますので、気になったところ、ここに関しては、特に伝えておきたいということ、重要だと思うところがあればぜひご発言いただきたいなと思います。いかがでしょうか。

○古川委員

さいたまづくりの輪は、事業化していく方向性があると理解しましたが、その場合、名称をつくりてという言葉が残っていると、出展団体さんも自分の団体向きじゃないのかなということもあるかもしれないので、多様な団体さんが参加できるような、飛び込みやすい名称にされると良いのではと思います。

○佐々木委員長

今後の予定について、少し解説していただけますか。

○事務局

先程の報告で、つくりての輪から、今後もやっていきたいとお話いただきましたが、当課としても、去年1年間やってみて市民活動を楽しく感じられる、身近に感じられる良い機会だったので、ぜひ続けてやっていきたいと思っております。どういう形というのはまだ決まっていないのですが、引き続きつくりての輪との協働で、この事業をやっていけたらと思っております。

○佐々木委員長

質問の時間が取れなかったのですが、良い活動であれば、事業化してちゃんと予算を取ってやるべきだなと思いました。他にいかがでしょうか。

○福島委員

シビックテックの事業ですが、行政のデータとかそういうものを楽しくICTを使って、アウトプットしていくということがこれから大事になってくるかと思います。シビックテックは、高齢者に限らず、これを全市民に対応するようなICTの展開をしてもらったら、私たちもすごく頼りになるかなと思っています。

できれば今後、対象をもっと広げて、行政データを楽しく見ることができるような活動をして欲しいなということを付していただけると嬉しいです。

○佐々木委員長

今の件に関してなにか補足などご意見がありましたらお願いします。

○古川委員

今、福島委員のおっしゃった事、本当にその通りだと思います。外国人の方とか、それから障害がある方とか、そうした全市民に広げていくというのが大事かなと思います。

○佐々木委員長

この講評は団体に渡されるのでしょうか。ホームページでオープンにされるのでしょうか。

○事務局

団体に渡した上でさらにホームページにも、講評として掲載します。

○佐々木委員長

やっぱりすごくいいもの、今後に繋がりそうなものは、ちゃんとプラスに評価して、次に取り組む団体も「こうすれば協働って意味があるんだ」とか、「予算が取りやすいんだ」とか、場合によっては、「将来的に事業化されるんだ」というのを知ってもらえるといいかなと思います。ちょっと講評とはずれてしまいましたが、評価をしっかりと発信するということが大事だと思います。

○藤原委員

私、質問をしましたが、ホテルの事業のようなことをすると、純粹自然を求める団体が必ず出てきます。純粹自然というのは、日本にはほとんどないんですよ。農作業と一緒にやってきた、自然が共生する自然でいいと思います。

二次的自然も価値が大変あって、私どもが思い出す自然というのは、みんな人の手がかかった田圃を残して一緒に生きてきた自然なんですね。それは純粹自然も大事だけど、この街中ではこういうことを歴史的背景に基づいて良しとするといった、事業展開するうえでの理論武装をきちっとしたら生きてくると思います。

それから、この子育てのHappy-Casketのところで、お母さんたちがキャーキャーやっているのが非難されるというけれども、やっぱりそれだけで終わるように見えたら批判しますよ、私もね。

だけど、それがこういう理由で、こういう時代の中で、社会に貢献できますといった、理論武装を各団体がよく考えて発表した方が、強くたくましい団体になるんじゃないかと思います。

○佐々木委員長

この辺はもしかしたら全体的に言えるかもしれませんがね。素晴らしい良い意見だと思います。

○大木委員

発表にあたって、フォーマットがあった方がいいのかということも議論としてあると思います。一言でいうと現場感が見えてこなかった。1枚でも写真があったらイメージできるのに…とか、あと3分って限られた中で発表しなければいけないのに、不要なところを説明していると感じたので、そういうところをどう改善したらいいのかと全体を通して感じました。

どの団体がとかではないのですが、全体を通して課題と思いましたので、次年度以降に変えていったほうがいいのではと思います。

○古川委員

以前はサポセンが団体向けの講座をやっていたのではないかと思います。今は、そういうのが無いというのも要因じゃないかなと思います。

○永沢委員

今のお話の関連ですが、評価表がありますよね。皆さんから報告はいただいたのですが、そもそもこのマッチングファンドの活動しかしていないのか、他にたくさんやっている中の一つかがまず分かりませんよね。

それに関してこの評価表は、あくまで今回のマッチングファンド事業ということで目標設定と、どういう過程で、どういう成果を目指したかということを書いているはずなのですが、多くの方の申請書の目標設定が、例えばむぎぐみさんは、子育て世帯の孤立化を防ぐとか、障害児と健常児がともに過ごす…という大きな目標を、シビックテックさいたまさんは、高齢者の健康寿命を延伸するというミッションを、南笛「歌声・あおぞら会」さんに関しては、高齢者の居場所をつくるといった目標を立てていますが、実際やっていることは、一過性のイベントやセミナーなんです。

つまり、本当のミッションとして掲げていることと、やっていることの乖離が大きいんです。だから、団体として健康寿命を延ばすとか、健常児と障害児が過ごすということを目指すのであればいいのですが、あくまでこの事業の目的というのも書いてもらわないと、評価ができないと思います。大きな目標を掲げていることの方を評価するとなると、できていないという評価になってしまうんじゃないかなと感じました。

そこで、この評価表の組み立て方を変えると、ある程度改善すると思います。まず1つが、1番上の事業の目的と目標の設定はあくまで、この事業に関する目的というのを記載していた

だくということ。続いて、評価項目の順番を変える。4「事業の成果」と5「協働事業の効果」を上を持ってくる。つまり、この目標を達成するために、どういう成果の数字であるとか、どういう効果を目指していくのかということ、数字を含めてあげていただいて、それを達成するために、2「団体と担当所管課との連携」と3「事業の適切な取組」つまり担当課と連携しながら、目標達成に向けてどういう動きをしていくか、という流れで書いていただくと、ある程度物語的な全体的フローが整理できるのではと感じます。

もう1点、3「事業の適切な取組」の評価視点という表現をちょっと変えたほうがいいかなと思いました。なぜかという、あるミッションがあって、それに向けて成果を目指して動くわけですね。その動く中身というのが、ほとんどの団体さんがコロナ禍で出来た、出来ないとか、何人集まったという話でしたが、それって成果としては非常に一部の成果だと思います。例えば参加した人にちゃんと声掛けをしたのか、相互フォローをしたのか、声掛けをすることで一過性のものではなく、今後の繋がりが持てる関係性を作ったのかどうか、ということが市民活動の中でとても大事なのですが、それを書く欄がこの表にはありません。おそらく書くとするこの評価表で言うと3のはずですが、説明が組織体制や事業経費について適切に取り組んだかどうかという表現になってしまっています。丁寧な市民活動としてのフォローだとか、関係性づくりというのを書く欄が無いように思います。そうしたところを、ちゃんと見ていかないといけないかなというところで、順番と表現を変え、それに基づいて発表いただくことで、マッチングファンド事業としての評価が整理できるのではないかなと、お話を伺って感じました。

○佐々木委員長

この評価表は、私も相談受けて修正をしたのですが、今の御意見ごもっともだと思いますので、また来年度検討できればと思います。他にいかがでしょうか。御意見があればお聞きします。

○堀川委員

初めて参加して、こういう風にやるのかと思いながら、勉強させていただいています。1点気になったのが、子育てに関する取り組みがこんなにあるのだなと聞いて思いました。

特に3番の団体さんでは、子育てと幅広く開いているはずなのに、結局ママ支援になっています。子育て支援であれば、パパママ問わず参加しやすい場所を作るということをやるべきか

などと思いました。おっしゃっていた説明とか書かれている内容は、ママ友づくり等、ママに偏っていて、それって目的と一致していないのかなと、なぜそういうことが起こるのかなと、まず一点思いました。

また、運営側のジェンダーバイアスといった、気づけているのか、気づけていないのかってところが課題だと思います。どう運営しているのかということが、団体の理念であったりとか、思想的な背景だったり、今回どの発表を聞いても目的も曖昧だと感じました。全体的に先ほどおっしゃったホタルの団体で、環境団体からの批判が来ることも多分前提として分かるだろうに、そのことを課題として挙げられてしまうのは、団体としてちょっと見積もりが甘いのかなと思ったところもあって、団体としてどういう目的を持ってやっているのかということと、このマッチングファンドでどういうふうにお金を取りたいのかということの一致、不一致が、今日の報告では少し分からなかったなと思いました。

○佐々木委員長

審査の時にも関わるお話だと思いますので、審査と最後の成果も含めて今後の課題にしたいと思います。他にいかがでしょうか。

○松岡委員

発表を聞いていて、中年向けの事業はないのかなと思いました。子どもと高齢者の間にあたる事業がない感じですね。今までそういう事業があったのかどうか、今回だけなのか、事務局に教えていただければと思います。

それから障害者の取り組みの代表者を調べましたけど、相当大変な事業をたくさんやっているようですね。代表者の挨拶文面を読みましたが、すごく感動しました。それからもう一つは阿部委員の質問であった2番目ですかね。男女協働参画から言えば、少し安心したという感想です。

○事務局

今までのマッチングファンド事業では、事業的には松岡委員のおっしゃった通りで、地域課題でよく挙げられるのが高齢者や子どもを対象に、皆さんが問題意識を感じているところなので、取組みも多いと感じています。ただ、それだけではなくて、令和元年度には、LGBTを理解するような講座を開催したり、あとは氷川神社で盆栽マルシェを開いたりというところ

で、幅広い対象年齢でやっているものも過去にはあります。

○古川委員

講評とはちょっとずれるのですが、ホタル舞う水辺環境のところ、学校の協力が得られなかったというのがありました。事業に関連して学校の協力を得たいが、報告のときにうまくいかなかったということが、繰り返しかれると思うので、学校の協力が得られるように、環境を整備する必要があるのではないかと思います。

○佐々木委員長

今後の参考というふうにさせていただければと思います。ということで時間になりましたので、講評はここまでとさせていただきます。最初にお話しましたように、事務局と私の方でまとめまして講評とさせていただきます。

■議題3 市民活動及び協働の推進について

○佐々木委員長

市民活動及び協働の推進について、事務局から資料の説明をお願いします。

○事務局

資料について説明。

○佐々木委員長

諮問の内容について昨年度は、現実には起きているギャップ、問題から、課題は何なのか、その原因は何なのかという話をしましたが、今年度は答申に向けて、具体的にどんなアクションをすべきか、資料では対応策というふうに書いていますが、今回の答申の一番のメインになる大事な部分を議論します。

資料6にあるスケジュールでは、第2回のワークショップでみなさんの意見をお聞きするというにしていますが、1回では少ないなということで事務局と協議して、少し頭出しぐらい皆さんで意見を出す機会をとろうということで、短時間ではありますが、本日時間をとりました。自分の考える意見も重要ですし、他の方の意見を見るということも大事だと思いますの

で、そのような形で今日は作業をしていただきたいと思います。

対応策を皆さんでアイデア出ししていくという場になりますのでよろしくお願いします。

○事務局

皆さん付箋にサインペンで書き出しをしていただければと思います。

《各委員 付箋にアイデアの書き出し》

《各委員 会場前方に貼り出された模造紙に付箋の貼り出し》

○佐々木委員長

ぜひ皆さん、他の方の付箋も読んでください。これからの進め方は、付箋を見ながら、意見交換できたらと思います。

まず、少し自由に発言していきたいと思いますので、気になったのがあれば教えてください。原因の深堀では、番号が若いほど意見が多かったのですが、本来は、そっちの方にたくさん意見が出るんじゃないかと事務局と想定していたのですが、そうでもなく分散していますね。6番のHow to 講習会って書いたのはどなたでしょうか。

○谷崎委員

これはいろんなスキルとかそういうものが無い方にも講習会があれば、多少、道筋ができるのではないかと考えです。

○佐々木委員長

これICTですね。コンピューターとかスマホとかの使い方の講習会があると良いですね。他にいかがでしょうか。金融機関と協働してみるというのがすごく気になったのですが、どなたでしょうか。

○田中委員

アピールの仕方も重要だと思うのですが、お金がなかったら銀行と相談してみれば良いのではないかなと思いました。

○佐々木委員長

なかなか市民活動って、銀行から資金を調達するのが難しいと思うのですが、何らかの形でサポートして、お金が調達されれば市民活動への参加が積極的になるのではないかということでした。他にいかがでしょうか。窓口となる機関がないっていうところに、トークワークショップとあるのですが、これはどんなものでしょうか。

○古川委員

サポセンの機能を復活させるという意見です。参考として市民協働ネットワーク長岡という新潟県のサポセンにあたる施設を指定管理しているところです。そこでは、地域の若者トークとか地域のアーティストが生き残るにはトークとか、事業企画のアイデアソンといったものを行っています。セミナーでは、協働条例についての学習会とか寄附についてとか助成金のこととか、ここで課題になるようなことを集約してやるっていうところです。

もともとサポセンはそういうことで設置されたと思うので、課題で「相談機関がない」と書いてありますが、あるはずですよというのが実は言いたいことです。

○佐々木委員長

いろんな方に参加してもらって、講演会というよりは、双方向な取組という感じですかね。

○古川委員

個別の活動の相談にも行けるし、多くの方が相談したり、情報を得たいというようなことに関しては、セミナーとかトークワークショップというような形で事業化している取り組みです。

○佐々木委員長

他団体との交流に関していくつか意見ありますが、団体間の交流情報共有をどう行政が促す、というのはどなたでしょうか。

○堀川委員

先ほどの報告会を聞いても、子育てとかは、共通してやっていて、でもそれがそれぞれの団体で横に共有されていないのかなと思いました。行政がそうしたところをうまく橋渡しする必

要があるのかなと考え書きました。

○佐々木委員長

市民が市民活動に魅力を感じるというところでどうでしょうかね。事業継続というのはどなたでしょうか。

○谷崎委員

先ほどの中でも、コロナで例えば7回開催するはずが、何回かしかできなかったというようなことがありましたけど、やっぱり続けることによって、参加する側も主催する側もだんだん奥深さがわかって、魅力を感じていくのではないかというので、単発で終わらすのは、もったいないなと思い記載しました。

○佐々木委員長

これ誰がどうするのかってあたりが、確認できたかと思いますが、他にいかがでしょうか。未分類って意外に少なかったですね。これ僕が書いたのは、WebやSNSの積極的な活用というのは、いろんなところに関わるかなと思っています。交流とか窓口にもなるかもしれないし、情報の発信とかにもなるかもしれません。他にありますか。

○福島委員

行政がコーディネートシステムを構築するって書いてあるのですが、やはりコーディネーターを欲しいと言っているけれど、見つけられないのは、個人をみつけようとしていることが原因だと思います。コーディネーターというのはシステムの一員であって、例えばその人に何か答えられないことでも、その人が知っている分野の誰かにつなげることによって、問題解決ができるかもしれないといった考え方で、ツリー構造みたいにとんどん人が繋がっていくっていうシステムを作っておいて、コーディネートが必要な場合は、その誰かにアクセスして、助言を得られればいいのかと思います。そういうシステムを行政が作ってくると、気も楽だし、頼みやすいかなと思いました。

○佐々木委員長

それは人を育てるっていうのも含めてですかね。

○福島委員

もちろんですね。

○佐々木委員長

大事な視点だと思います。他の市民団体とネットワークできる仕組みを作るというのは。

○山本委員

市民団体が余りにもバラバラに存在しすぎていて、それを束ねたら、すごい力になるということ、事例等で集めながら、対外的に持ち出していかないと、そういうことが分からず単発で終わったりしてしまうところが多いと思います。

マッチングファンドも、もしかしたらそういう一例になっているのではないかと考えていて、できればこのマッチングファンドに関わった団体だけでも、継続性とか、実施した事業と違う事業をやっているかもしれませんが、その辺を一つまとめてみると、ネットワークの形が見えてくるのかなと思って書きました。

○佐々木委員長

マッチングファンドに関わった団体は、毎年1回集まれるような何かそういうイベントをやるとか、そういうのはありますよね。

○永沢委員

経験からお話させていただくと、企業とNPOのマッチング機会って、もうこの20年以上いろいろな自治体やってきましたが、ほとんどうまくいってないんですね。

ただ、直近で企業とNPOのマッチングが進んでいる例でいくと、例えば都市部では比較的フードバンクとか、子ども食堂、そういうテーマが明確だと、飲食メーカーが食材を提供して、現場をNPOが運営する。地方都市で意外と盛んなのが空き家対策。NPOがリノベーションしてカフェにする。そこにいろいろな企業さんとか不動産会社とか建築会社に関わる。つまり、何か連携しようではなくて、ある課題とテーマを明確に示すとそこにお互いができる資源を出し合うというマッチングは健全で、そういう発信の仕方が、非常に効果が高いなと思います。

もう一個だけ、いわゆる資金調達の件に関して、私はNPOって大きく分類するとサークル活動とボランティア活動と事業型NPOって分けています。サークル活動というのはお互い会費を出し合ってみんな活動するので、あまりこのマッチングファンドとかのニーズがないですね。

ただ一方でボランティア活動は、今回のマッチングファンドのようなケースが多いですね。これは補助金とか助成金とかクラウドファンディングが効果的な資金調達になります。事業型に関しては、おそらく金融機関からの資金調達の可能性があったりするので、ひとくりに市民活動とせずに、丁寧に分類をした中で、それぞれがどういう資金調達をして、何が足りなくて、どういう支援策が有効かと考えることで、非常に適切なサービスが適切な団体に提供できるのではないかなと思います。

○佐々木委員長

活発な意見交換ありがとうございました。付箋を使ったので、皆さんの意見が反映できるということで、事務局と整理して、次回以降の資料として活用させていただきたいと思っています。

それではここまでで、3つ目の議題が終了となります。本日の用意されている3つの議題は終了しました。事務局から何かあれば、御連絡をお願いいたします。

3 その他

○事務局

《事務連絡》

4 閉会

議事録署名委員

委員長

佐々木 誠